

た検証, その他関連データとの対比を行うことで, より良い雲分布の導出, 雲情報の取得をめざすことが決められた。また, 今後さらに, 雲物理や放射収支の観測を含めたグランド・トゥルースの観測を推し進めるべきこと, 理論的研究も進めること, この研究の輪を国際的に広げていくこと(カナダ, フランス, ソ連等の研究者), そして気候研究へ, 極域の放射収支の研究へ発展すべき

ことが提案された。ワークショップの報告は, WCP レポートの一冊として出版される予定である。

### 文 献

久保田 効, 1985: 国際衛星雲気候計画 (ISCCP) の進展, 天気, 32, 5-13.

## NEWS

### 「赤道レーダー観測所」計画について

京都大学超高層電波研究所の加藤教授を中心に, 超高層物理学者・気象学者らで, 赤道上に, 電離圏まで観測可能なレーダー(直径 300m)の観測所をボルネオのポンティアナックに建設する計画が進行中である。

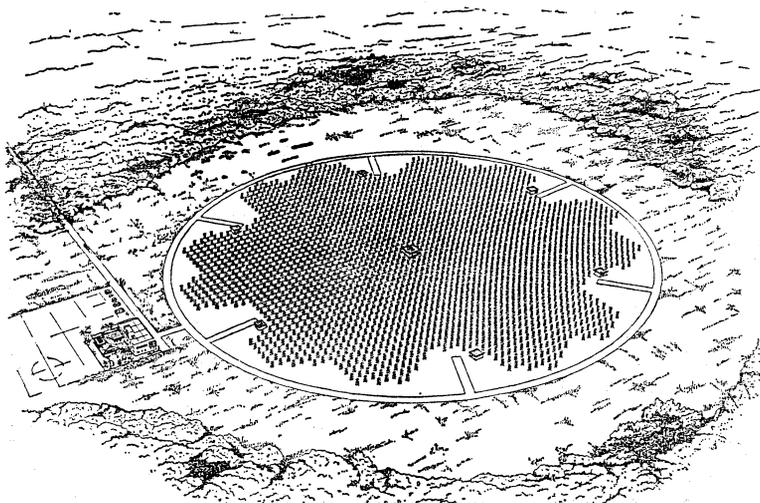
赤道域にこのようなレーダー施設を作る計画は, 非常に興味深いもので, 世界各国の期待も大きい。事実, インドネシアは, 土地や人員を提供しようとしているし, 米国も, NSF が, 参加を希望している。

日本の大型施設を海外に建設しようとする計画は, ハ

ワイの天文台に次いで2番目であり, その実現が期待される。

今回の赤道レーダーでは, 中層大気重力波の励起源としての積雲の観測も重要視されており, 気象学的な観測も不可欠である。この観測のために最適なインドネシアに, 恒常的な観測施設を持つことは, 日本の気象学界としても画期的なものとなるであろう。

(東大理学部 住 明正)



赤道レーダー完成予想図